

工夫の種類 (10) その他一般	
テーマ	ポートフォリオ「ステップアップノート」を用いた学生指導の実践
授業科目名	
対象学生	工学部学生
受講者数	
授業形態	
教材・メディア等	冊子
工夫のポイント	ステップアップノートは、学生各人が自己分析、将来目標、生活プラン、活動実績などを記録し、自己評価をしながら、充実した大学生活をおくり、自ら成長する手助けとなるように工夫したノートです。
キーワード	自己分析、将来目標、生活プラン、活動記録、自己評価
授業担当者名	

具体的な内容

1. ステップアップノートの目的

ステップアップノートは、学生各人が自己分析を行い、入学の動機を確認し、将来の目標を描き、その目標に向かって卒業までの生活プランを年次ごとに計画し、その結果を自己評価し、また在学中の活動実績を蓄積し、自己アピールをまとめて、就職活動にも役立つように工夫したノートです。学生が自分で記入し、充実した大学生活をおくり、自ら成長（ステップアップ）する手助けとなるように工夫したのですが、教職員との意見交換も記録できるようにしてあります。平成19年に44ページからなるオリジナル版を開発し、それを簡略化した簡略版を平成21年から毎年発行しています。簡略版は表紙や目次を含め12ページものですが、毎年少しずつ改訂をしています。

2. ステップアップノートの目次

ステップアップノート簡略版の目次は次のとおりです。これはオリジナル版の目次とほぼ同じものです。

I はじめに

- 1.1 ステップアップノートとは
- 1.2 ステップアップノート記入の手引き

II ステップアップのために（記入用ページ）

- 2.1 自己分析（過去の自分を振り返る）
- 2.2 ライフデザイン（夢を描く）
- 2.3 卒業までの生活プラン
- 2.4 在学中の活動記録の作成
 - 2.4.1 身につけたこと
 - 2.4.2 やったこと
 - 2.4.3 学んだこと
- 2.5 自己アピールの作成
- 2.6 教職員との意見交換の記録

3. ステップアップノートの記入内容

- (1) 幼少時からの自分を振り返り、工学部という「技術者への道」を選んだ理由、および長所や短所などを自己分析します。
- (2) 将来やりたいこと、または工学部で目指していることを記述します。

- (3) 興味のある職業とかやってみたい仕事について記入し、それを踏まえて学年ごとの目標を計画し、その結果について自己評価をします。
- (4) 在学中に身につけたこと、やったこと、学んだことを活動記録として記入し自己評価をします。それらの記録を蓄積し、就職活動の資源として利用できるようにします。
- (5) 材料をそろえ、自分の考えを整理して自己アピールを作成します。
- (6) 大学生活における重要な記録として教職員との面談内容のほか、大事なこと、忘れてはいけないことなどを記録します。

成果・効果

4. ステップアップノートの開発と改訂と試行の経緯

ステップアップノートは、工学部サロンの活動経験を踏まえて、平成 19 年 3 月に工学教育研究センターが開発しました。これは独自にデザインしたバインダー付きのオリジナル版で 44 ページからなるものです。平成 19 年度前期には 3 学科の「基礎セミナー」で試行されました。その成果は 9 月 21 日開催の工学教育研究講演会&意見交流会で「ステップアップノートによる学生の活性化支援」と題して発表されています。普及を目指してさらにもう 1 学科で 2 年生にステップアップノートを配布しています。基礎セミナーのシラバスから判断すると、平成 20 年度も試行されていますが、試行する学科が次第に減少しています。そこで平成 21 年度には「簡略版」(18 ページ)を作成して 1 学科のみですが新入生オリエンテーションで配布しました。平成 22 年度には「改訂簡略版」(12 ページ)を作成して新入生オリエンテーションで新入生全員に配布しました。新入生と工学部サロンを結ぶ媒体として活用することを意図しましたが、その意図は達成されたとは言いがたい結果となりました。平成 23 年度には「簡略版 2011」(12 ページ)を作成し、学生委員会に依頼して新入生オリエンテーションで説明した上で新入生全員に配布しました。工学部サロンに来訪する学生には、できるだけステップアップノートを話題に出すようにはしていますが、有効に活用されるまでには至っていないのが現状です。

5. 今後の課題

ステップアップノートが普及し活用されるためには、まず広く教員に認知され、有用性が認められるようになることが必要ではないかと考えられます。ポートフォリオや修学の手引きなどが作成され運用されている学科との調整も必要ではないかと考えられます。さらに学生がステップアップノートを積極的に記録し活用するためには、それに適した仕組みまたは組織的な取り組みが重要になるものと思われれます。

6. 参考文献

- 1) 三池, 山鹿, 進士, 堀江, 溝田: ステップアップノートによる学生の教育活性化支援システム, 工学教育, 第 55 巻, 第 4 号, pp.35-41, 2007
- 2) 三池秀敏: 山口大学工学教育センターの取り組み, 平成 20 年度中国・四国工学教育協会講演会, 2008

(注) 工学教育研究センターは、工学教育に係る新たな取り組みを調査・分析して、本学の工学教育の改善に資することを目的として、平成 17 年 8 月に設立された工学部付属の組織です。工学部サロンは、工学教育研究センターの議論をふまえて、平成 18 年 6 月に吉田キャンパスに開設され、工学部 1 年生のいろいろな相談に応じ交流するための部屋です。